## 12. 全身スキャン法による悪性リンパ腫の拡がりの診断

横浜市立大学　放射線科
小野　慈　伊東　乙正　菅原　正敏
朝倉　浩一　窪田　宜夫

$^{67}$Ga citrate は種々の腫瘍診断に利用されている．悪性リンパ腫は Edwards 以来陽性像に出ることがよく知られており，治療上提供する情報の意義は大きい．一方悪性リンパ腫はその性質上，全身の拡がりを日常，目を光らせている必要があり，特に所見がつかみにくい部位の診断に，苦慮している面がある．現在治療を行なっている症例と，follow up 中の症例について，全身スキャン法により，その陽性像と臨床所見とを検討した．

$^{67}$Ga citrate 1.0～1.5 mCi 静注後，48時間～96時間の間に，日立製全身スキャナー（5インチ）にてスキャンを行なった．スキャンスピードは毎分2m 上下2門の積算量を 1/5 ないし 1/3 縮尺にて記録した．検査対象は，悪性リンパ腫（細網肉腫，リンパ肉腫，分類不能）12例，治療中の症例5例，follow up 中の症例7例であった．

治療中の症例，5例中4例に予期せぬ部位に陽性像を発見，他の検査法および臨床経過にてその部位に腫瘍を確認した．放射線治療部位は陽性像とならなかった．

follow up 中の症例7例のうち1例に腫瘍の発見をし，確認をした．1例に疑陽性像の所見が得られたが，腫瘤は不明であった false positive の症例があった．さらに陽性像を提した別の1例は，他の検査法で確認されず，経過を観察中である症例がある．

治療中での症例で，予期せぬ腫瘍を発見した部位は，副鼻腔内，膝窩，後腹膜リンパ節である．特に後腹膜リンパ節については，リンパ造影施行時，異常所見が得られず，その後（2～5カ月後）$^{67}$Ga シンチ施行後，造影剤残存像を手がかりに，比較検討してみると異常と判断されるものがあり，X線像の注意深い読影の必要性を痛感した．

本法にてくり返し検査することは，悪性リンパ腫の管理に有用であると考えられる．

## 13. $^{67}$Ga-Citrate による悪性リンパ腫のスキャンニング

日本医科大学　放射線科
唐沢　正明　山岸　嘉彦　長谷川正浩
小林　直紀　渡部　英之　椎葉　忍
行武　純一　本多　一義

〔目的および対象〕 $^{67}$Ga-citrate によるスキャンニングに関してはすでに胸部および頭頸部について報告を重ねて来たが，今回は悪性リンパ腫にこれを行ないその臨床的意義，Ga 取り込み率，X線で明確にし得なかった病巣の位置および拡がり，すなわち放射線治療の照射野決定への寄与等について追求した．対象は昭和45年3月より昭和48年2月までの3年間に我々の教室を訪れた悪性リンパ腫の患者である．その内訳は細網肉腫14例，リンパ肉腫6例．ホジキン氏病2例，巨大濾胞リンパ腫1例，その他2例，計25例，スキャン回数39回であった．

〔方法〕 $^{67}$Ga-citrate 0.5～1.0～2.0 mCi を静注24～48～72時間後にスキャンニングを行なった．東芝製 RDA—106—1 型スキャンナー使用，37 hole コリメーター，焦点は 10 cm および 15 cm，スキャンスピード 66cm/min および 90 cm/min であった．

〔結果〕 1）シンチグラム上の取り込み率は未治療群では20例中17例85%，既治療群では19例中2例10.6%であった．

2）単純X線写真で病巣，位置，大きさの不明な症例についてのスキャンニングは特によく，その位置や広がりの範囲を適確に捉えることが出来た．すなわち病巣が軟部や縦隔にある症例また胸水のある症例等に有効であった．

3）本検査による病巣範囲の適確な把握は治療上特に放射線治療の照射野を決めるのに極めて有効であった．

4）初回スキャンニング時に取り込みを認め放射線治療を行なった9例中7例に著明な取り込み減少を認めた．

以上悪性リンパ腫の $^{67}$Ga-citrate によるスキャンニングは診断，治療上極めて有効であった．興味ある症例を供覧した．

Presented by Medical*Online